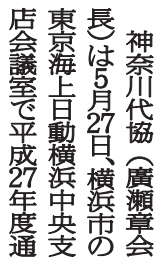


環境変化に対応し活路開く 神奈川代協が通常総会 加入メリットの情宣で会員増強へ



廣瀬会長



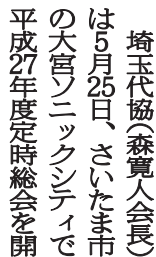
日本代協・野元専務理事

神奈川代協(廣瀬章会長)は5月27日、横浜市の東京海上日動横浜中央支店会議室で平成27年度通常総会を開き、平成26年度事業報告や27年度事業計画などを審議した。総会に先立ち、廣瀬会長および来賓を代表して損害協会神奈川損保会会長の中村佳弘氏、日本代協理事の大藪邦嗣氏が挨拶。環境変化に対する代理店のあり方について、廣瀬氏は「私たち代理店は環境の変化をどう取り入れ、活路を切り開いていくか、そして具体的な取り組みが求められている。代協会員はそのような環境のなかでも業界全体の健全な発展のために力を尽くしていかねばいけない」と述べた。来賓挨拶した中村氏は、今年4月から始まっている損害保険大学課程「コンサルティングコース」の今年度受講プログラムについて、受講者が過去最高となる1200名超となったことを報告し、「損害協会としても損害保険トータルプランナーの称号が信頼の証として社会に受け入れられるように周知していく」と述べた。大藪氏は、日本代協の重点施策である「会員増強」「損害保険大学課程コンサルティングコースの受講者募集」「国民年金基金の活用」の取り組みを呼びかけるとともに、神奈川代協が「私たちほとんど現場から保険会社に発言をしなければいけない。そうした今年度はどうすれば保険会社や代理店が変わっていくのかをテーマに、保険会社と協力しながら意見交換をしていく1年にしていく」と思っている」と述べた。

大藪氏は改正保険業法の意味合いについて述べ、「改正保険業法は代理店である皆さんを守るためのものではなく、契約者や消費者を守るためのものだ。そのために代理店や募集人がどちらを向いていくべきかを示すものであり、今後は代理店が契約者や消費者のためにとつこう姿勢を持つべきだ」と述べた。

また、教育活動面では、「埼玉県内高等学校生徒に対して、保険の重要性や代理店の価値を伝えるプロジェクト」を展開することとした。この取り組みでは、これから社会に巣立っていく高等学校の3年生を対象に交通事故の起る原因や実際に起こった事故例をもとに、事故現場での心得や注意事項、高額な賠償事例や円滑に事故を解決するためのポイントを解説し、自動車保険の基本に

県内の高校で出前講座を実施 埼玉代協が通常総会開く 損保協会と超高齢社会で勉強会



森会長



日本代協・大藪理事

埼玉代協(森寛人会長)は5月25日、さいたま市の大宮ソニックシティで平成27年度定時総会を開いた。総会では平成26年度事業報告や27年度事業計画など付議事項4点を審議。いずれも可決承認された。

総会に先立ち、森会長と日本代協理事の大藪邦嗣氏が挨拶。任期1年となった会長としての職責についてふれた森氏は、「保険業法や民法、商法など私たちを取り巻く周辺の法律がどんどん変わるなかで、一番変えるべき人間の頭や考え方が変えられていない。人間は昔の成功体験をなかなか捨てられないからだ。私

に力を尽くしていかねばいけない」と述べた。来賓挨拶した中村氏は、今年4月から始まっている損害保険大学課程「コンサルティングコース」の今年度受講プログラムについて、受講者が過去最高となる1200名超となったことを報告し、「損害協会としても損害保険トータルプランナーの称号が信頼の証として社会に受け入れられるように周知していく」と述べた。大藪氏は、日本代協の重点施策である「会員増強」「損害保険大学課程コンサルティングコースの受講者募集」「国民年金基金の活用」の取り組みを呼びかけるとともに、神奈川代協が「私たちほとんど現場から保険会社に発言をしなければいけない。そうした今年度はどうすれば保険会社や代理店が変わっていくのかをテーマに、保険会社と協力しながら意見交換をしていく1年にしていく」と思っている」と述べた。

大藪氏は改正保険業法の意味合いについて述べ、「改正保険業法は代理店である皆さんを守るためのものではなく、契約者や消費者を守るためのものだ。そのために代理店や募集人がどちらを向いていくべきかを示すものであり、今後は代理店が契約者や消費者のためにとつこう姿勢を持つべきだ」と述べた。

また、教育活動面では、「埼玉県内高等学校生徒に対して、保険の重要性や代理店の価値を伝えるプロジェクト」を展開することとした。この取り組みでは、これから社会に巣立っていく高等学校の3年生を対象に交通事故の起る原因や実際に起こった事故例をもとに、事故現場での心得や注意事項、高額な賠償事例や円滑に事故を解決するためのポイントを解説し、自動車保険の基本に